

- 【文部科学省】 31~33教育課程特例校(徳育科)
 【都教育委員会】 28~オリンピック・パラリンピック教育推進校 28~学校と家庭の連携推進校
 29~学校マネジメント強化モデル事業実践校
 【市教育委員会】 25~武蔵村山市N I E推進校 26~「徳育科」推進モデル校
 31 小中一貫教育推進校(五中校区) ラオス・パチュドン校姉妹校



徳育科のパイオニア コミュニティスクール



八小だより

武蔵村山市立第八小学校 令和元年12月2日

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmc8s/index.html>

教育目標

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- やりとげる子
- 礼を重んずる子

行動目標

わけをそえて話することができる子
 教室で話しているのは一人

地球温暖化について考える(持続可能な社会の実現に向けて)

校長 牧 一彦

師走を迎えました。比較的暖かな11月でしたが、先週あたりから冬の寒さがやってきました。早いものであと3週間余りで2学期も終わりです。子供たちは、風の冷たさにも負けず、元気よく縄跳びをしたり、校庭を駆け回ったりしています。

先週末に実施した学習発表会(展覧会)には、御多用の中、多くの御来賓と多くの地域・保護者の皆様にお越しくさきり、心より感謝申し上げます。子供たち一人一人が心を込め、思いを馳せながら創り上げた作品はいかがだったでしょうか。「うまい」とか「へた」という見方ではなく、題名を手がかりに、一つ一つの作品から想像できるその子なりの「想い」や「ストーリー」を思い浮かべながら作品をよく見ると、その作品から子どもの姿が浮かび上がってきます。その子の性格や生活までも想像することができます。まして作者をよく知っている保護者の方や担任にとっては、それはとてもたやすいことでしょう。見る者が豊かな想像力をはたらかせれば、「子どもの作品」も「美術館でみる一流芸術家の作品」も大差はないと改めて思いました。

先日、新聞、テレビ等のメディアを通じて次のようなニュースが伝えられました。

<オーストラリアで森林火災>

- この火災で1000頭以上の野生のコアラが焼死した可能性が...
- コアラの生息地の80%に当たる165万ヘクタールの森林を焼失?



火傷治療中のコアラ

これに加え、今年9月には南アメリカのブラジルでのアマゾン森林火災についても大きく報道され、近年の気候変動が一因と考えられる世界規模の災害に驚きと恐怖を感じました。さらにイタリアのベネチアでは11月13日、高潮による浸水が発生、世界遺産のサンマルコ寺院をはじめ、街の85%が浸水被害に遭いました。

一方、日本でもこの9月から10月にかけて2つの台風(15号と19号)により、甚大な被害を被りました。多くの尊い命を失い、多くの財産を消失し、また多くの被災者に精神的・肉体的苦痛を与えたことは、記憶に新しいと思います。

これらの「自然災害の一因」、あるいは「災害を大きくしてしまった一因」として考えられているのが地球温暖化です。本校においても、今年の夏から前代未聞の「高温による夏季プールの中止」という事態が発生し、温暖化の影響を肌で感じています。

私たち大人は、21世紀を生きる子供たちのために、これまでと変わらぬ過ごしやすい地球環境を維持しなければなりません。では、私たちは何をすればいいのでしょうか。地球規模のこの問題を解決するには、全世界の人々が同じベクトルで動かなければなりません。そんな大それたことは到底できませんが、まず私たち大人が、「温室効果ガスの排出を少しずつでも減らしていくこと」、ゴミの分別、リサイクル等を進め、「循環型社会を目指すこと」はできると思います。さらに、未来を担う子供たちに、温暖化の事実を伝え、「その解消方法を考えさせること」、併せてその行為の源となる「思考力や解決力を磨くこと」も可能だと思えます。今の大人たちがつくってしまった負債を子供たちに返済させるのは心苦しいですが、私たちの子孫が末永く幸せに暮らしていくために、私たちは、「今できることをしていくこと」が大切だと思うのです。

今後も八小では「持続可能な社会の実現に向けた」教育を積極的に展開していきたいと考えます。限りある資源を大切に使い、循環型社会の形成者となる子供たちを育てていきたいと考えています。

子供たちの笑顔のために、教職員一同の叡智を集めて、地域に愛されるよりよい学校づくりに努めてまいります。地域・保護者の皆様の御理解と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。